

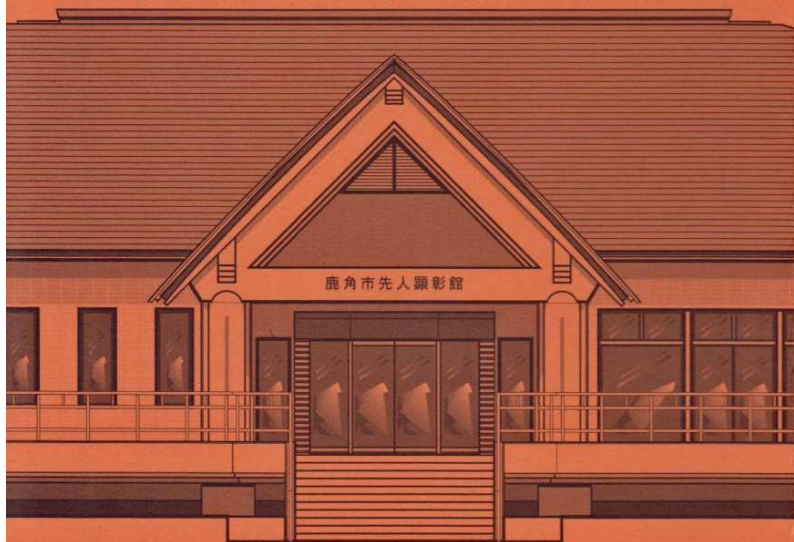
新しい文化を築いた人々…


先人顕彰シリーズ⑩

## ●石田収蔵●

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。



鹿角市先人顕彰館  FAX 0186-35-5250

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2

## 略 歴

### ◎石田収蔵

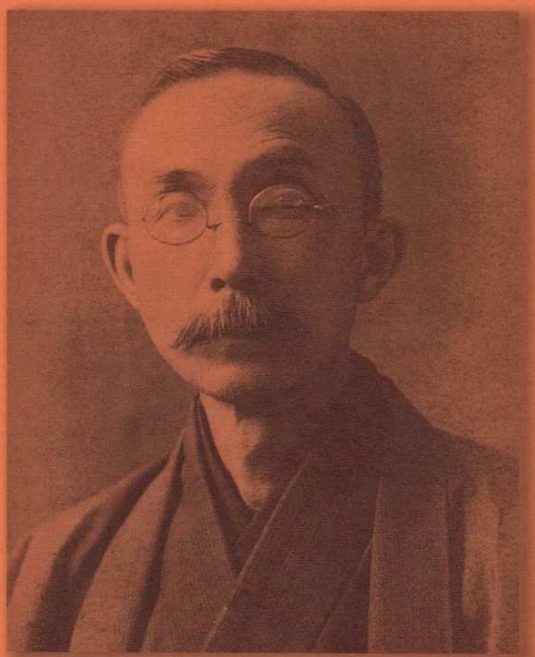
- 明治12年 1879 ● 父実継、母キヨの四男として鹿角郡柴内村に生まれる。
- 明治26年 1893 ● 花輪小学校高等科を卒業し、八戸中学校へ入学。
- 明治34年 1901 ● 第四高等学校（金沢）を卒後、東京帝国大学理科大学動物学科入学。
- 明治38年 1905 ● 同科を首席で卒業し、大学院へ進む。東京高等農学校講師を勤める。
- 明治40年 1907 ● 恩師坪井正五郎の樺太調査に随行する。以後、昭和14年まで5回にわたり調査を重ねる。
- 明治43年 1910 ● 小野静と結婚。
- 大正4年 1915 ● 「人類学雑誌」発行兼編集者となる。
- 大正6年 1917 ● 農大で動物学、植物学、植物生理学を教授。
- 大正7年 1918 ● 東京農業大学教授となる。
- 大正8年 1919 ● 第五郎の長男信郎を養子とする。
- 大正14年 1925 ● 東京農業大学図書館長となる。
- 昭和4年 1929 ● 全国図書館協議会員として、台湾視察をする。
- 昭和15年 1940 ● 1月死去、享年61歳。



# 石田収蔵の業績

1879-1940

北方民族研究の草分け



東京帝国大学在学中に日本人の人類学の創始者、坪井正五郎と出会い、同大学院で人類学、動物学の研究に没頭する。

明治40年、師事していた坪井正五郎の樺太調査に随行し、以降複数の大学で教鞭をとる傍ら、昭和14年まで5回にわたる現地調査を重ねる。その業績は北方民族文化研究のさきがけといえるものであり、その緻密な記録は現在の研究にも貴重なものとなっている。

また長年にわたり東京人類学会の要職も歴任し、日本の人類学発展に寄与した功績は大きい。